

国際熱帯木材機関（アイ・ティ・ティー・オーITTO）第58回理事会（ITTC58）開会式  
武井副大臣によるスピーチ

令和4年11月7日 於：パシフィコ横浜

時間：約3分間（日英同時通訳）

マホーニーITTC議長、サックルITTO事務局長、各国政府代表の皆様、山中横浜市長、御列席の皆様。

- 新型コロナのパンデミック発生により3年ぶりの対面開催となる第58回理事会が、各国代表団の皆様参加の下で開催されることを、ホスト国政府を代表して歓迎いたします。
- 新型コロナのパンデミックは世界経済に大打撃を与え、今年に入ってから、ロシアのウクライナ侵略によって、エネルギー・食料・木材を含むあらゆるサプライチェーンに甚大な影響が出ていますが、同時に我々が対処すべき問題として、気候変動対策及び生物多様性保全があります。
- ITTOが推進している持続可能な熱帯木材の取引と利用は、温室効果ガスの削減に貢献するものです。コンクリートや鉄等と異なり、建築物等への使用による炭素の貯蔵、製造・加工時のエネルギー消費の減少が見込めることから、脱炭素化を進める上でも鍵を握る、非常に重要な素材となっています。また、気候変動対策と併せて進めるべきとされている生物多様性保全においても、森林が果たす役割の大きいことは、様々な生物が熱帯林で暮らしていることから明らかだと思えます。
- 世界の熱帯林の80%、木材・木材製品の貿易の90%をその加盟国が占めるITTOが、熱帯林の持続可能な経営や合法的な熱帯木材利用を担う唯一の国際機関として果たすべき役割は、拡大することはあっても、縮小することはないと考えています。

- 今回の理事会は、ITTO の活動の根拠である協定・ITTA（国際熱帯木材協定）の今後のあり方についての議論や、ITTO の多様な資金調達的手段を議論する、重要な機会になると承知しています。ITTO が地球規模課題への貢献の観点から、今後の活動の幅を拡大する上で必要な議論と考えており、事務局による貢献の上に、加盟国間で十分に議論・検討されることをホスト国としても期待しています。
- 木材の供給に加え、二酸化炭素の吸収、豊かな生態系の保全等、人類にとって不可欠な価値を提供している熱帯林をどのように保全し、持続可能で合法的な形で利用していくのか。
- この人類にとって重要な議論が、今回の理事会で行われ、成果に結びついていくことを心から祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

（了）